



ひたすらつながり

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
縁特別会員加入のご案内



滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138 (県立長寿社会福祉センター内)

TEL: 077-567-3920 / mail: soumu@shigashakyo.jp

縁 特別会員

募集にあたって

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

平成26年9月1日に発足した滋賀の縁創造実践センターは滋賀県内の福祉関係者が分野や組織を越えてつながり、制度の狭間にある課題などに対しての実践などを通じ滋賀の福祉の充実に貢献し、その所期の目的を一定達成したことから設置期間満了の平成31年3月31日に解散し、滋賀県社会福祉協議会がその理念と実践を継承したところです。

滋賀に暮らすだれもが「おめでとう」と誕生を祝福され「ありがとう」と看取られる地域社会という滋賀の縁創造実践センターの理念を継承し、その理念の具体化を実践する普遍的な活動主体となるため、滋賀県社会福祉協議会は今般、定款を改正し、**①縁共生の場づくりを目的とする事業の企画及び実施、②法や制度の狭間にある生活課題への支援に関する事業の企画及び実施、③生きづらさを抱えた人と地域の架け橋となる事業の企画及び実施、④滋賀の福祉人づくり事業の企画及び実施、⑤縁共生を目的とする住民、特定非営利活動法人、社会福祉法人、団体、企業等との共働事業の企画及び実施の5つを新たに加えました。**
これら事業実施の財源は滋賀県社会福祉協議会の拠出金と縁特別会員の会費です。

具体的な事業実施内容はこれまでモデル事業として展開してきた**①遊べる学べる淡海子ども食堂、②ひきこもり者と家族の支援、③社会的養護の子どもの自立支援、④フリースペース、⑤重度障害児者の生活支援、そして新たに居住・生活支援、中高年障害者の支援、滋賀県老人福祉施設協議会や滋賀県保育協議会との共働事業などに取り組み、つながりの力で滋賀の福祉の底上げ及び充実と、県民の皆様福祉現場で働く人たちの社会的役割を広くアピールする場にしたいと考えております。**また、滋賀の福祉職場が、働く人の思いと意欲が生かされる希望ある職場であることは「滋賀の福祉人」の確保と定着を後押しするものと確信しております。

つきましては、縁特別会員の趣旨と意義をご理解くださり、縁特別会員に加入賜りますようお願い申し上げます。

「おめでとう」から「ありがとう」まで 縁架け橋プロジェクト

令和元年10月9日、新たな滋賀の縁創造実践センターの「ひたすらなるつながりフォーラム」に
集ってくださった方がたの大切な言葉から

● 三日月大造さん（滋賀県知事）

私は「健康しが」をみんなでつくろうと呼び掛けています。その方向性は私たち人の健康と、人と人との支えあう社会の健康、そして土台になる自然の健康を高めていくことだと考えています。すべての人に居場所と出番を、そして持続可能な共生社会をつくるー「一緒に生きる」ところからさらに「一緒に生み出していく」共生（ともうみ）の思想を、滋賀の社会づくり、政策づくりに生かしていけたらいいなと思っています。

● 湯浅誠さん（社会活動家／東京大学特任教授）

令和の時代的課題は「ひたすらなるつながり」だと思っています。多様性というのは存在の問題です。この人が女性であることを認める。この人が障害を持っていることを認める。存在を認めるか認めないかなんです。だけどつながるといのは、この人とつながろうと意識して、そのためのやり方が分かっているかないとつながれない。つながるための意思と工夫を積み重ねていくことなんです。これは福祉の話じゃないと思うんですよ。ある高校生は「一緒に歩いているときにちょっとゆっくりめに歩く人っているじゃないですか。そうしたら自分もゆっくり歩く。それだと思うんです」と言った。つながりは決して福祉の話じゃない、いや福祉の話で終わってはいけないと思っています。この時代的課題の先取りの一つが縁センターであり、子ども食堂だと思うのです。

● 藤居眞さん（滋賀県老人福祉施設協議会会長）

平成26年の社会福祉法改正時、我々は地域にどのように貢献していくのかということをお会施設に問いかけてきました。「私たちは高齢者のことだけをやっていたらいい」ではなく、社会福祉法人は社会福祉、社会全体のことを共に考えていくという立場にあります。滋賀県老人福祉施設協議会は今後も更に一層、滋賀県社協と共に地域・社会と共に進んでいくことを皆さんに宣言します。

● 松川恵さん（株式会社六匠 取締役）

フリースペースの活動で大切にしていることは、子どもたちが困ったときに訪ねて来てくれる場所になること。訪ねるだけではなくて、頼りにしてくれる人になることです。彼らの思いを受け止めて、次のステージにつなげていける手助けができたらと思って活動をしています。ご機嫌な彼らと、たくさんの課題に押しつぶされそうな私たちは、フリースペースで一緒に過ごしてくれる人と出会いたいと思っています。

● 森恵生さん（彦根市社会福祉協議会 地域福祉課長）

例えば彦根市社協だけでひきこもり支援をやれと言われてもできないけれど、彦根市には行政の窓口もあればひきこもり支援をしているNPOもある、社会福祉法人もある。何よりもこの課題を何とかしたいと思っている方がたくさんいらっしゃる。社協が何でもできるということではないけれど、地域で何か思いをもった方々の集まりをつくり、一緒に課題解決していく、その役割をこれからもできたらと思います。

● 杉山真智子さん（認定特定非営利活動法人四つ葉のクローバー理事長）

「社会的養護の子どもの架け橋づくり」にメンバーとして関わり、制度のはざまにあるニーズを拾い上げる仕組みに感動したことを覚えています。私たちは、「失敗をしてもいいという体験」が大事ななと思っています。たくさんの支援機関とつながることで、安全基地の提供、成長し自立していく機会の提供、伴走型支援が可能となります。糸賀先生がずっとくださった屈指の福祉県という土壌に、縁、地域、人、時代が融合しひたすらつながっていくことに一緒に関わらせていただきたいと思います。

● 上野谷加代子さん（同志社大学教授／滋賀県社会福祉協議会理事）

社会保障審議会でも福祉人材にどう活躍してもらえるか、養成できるかが大きな関心事となっていますが、私は何よりも「滋賀の福祉人の皆さん、分野を越えてつながって、一緒に活性化していこう」、このことに力をいれるつもりです。同時に社会福祉法人の役割が、戦後のときと匹敵するぐらい期待されている時期だと考えております。「滋賀の縁創造実践センター」で、社会福祉法人が本当に変わっていくプロセスを見せていただいています。そして、民生委員児童委員協議会や様々な団体や個人が、みんなが一緒にやってくださっているというのもこの縁センターの強みです。お互いの気持ちを共有して新たな歩みを進めたいと思っています。

● 渡邊光春（滋賀県社会福祉協議会会長）

全長13キロの瀬戸大橋の近くに長島愛生園と呂久光明園というハンセン病の療養所があります。その療養所がある長島と本土の間は30メートルです。その30メートルの橋ができたのは瀬戸大橋より1か月も後でした。これはハンセン病患者の人権回復に力を注がれた大谷藤郎先生に聞いたお話です。療養所の人たちはこの橋を「人間回復の橋」と呼ばれたそうです。自分たちは初めて社会とつながったのだ。架け橋を架けてくれたのだという非常に感動的な話でした。縁センターも「縁架け橋プロジェクト」という名称で、さまざまな「架け橋」をかけたいと思います。そして、さまざまな架け橋の中で、一人でもみんなが喜ぶ人になり、それを支える人たちも、生きてきてよかったと思う、まさしく「おめでとう」から「ありがとう」までの感覚をもちたいと思っています。

● 杉山泰子さん（子ども食堂「出会い食堂♥よっといで〜♥」代表）

私たちは、参加対象を限定せずに交流に軸足を置き、食事や遊びを通して思いやりの気持ちや支えあうという文化を大切にすることを学んでほしいと願っています。人気メニュー第1位は手巻きずし。子どもたちのとびっきりの笑顔に元気をもらえることに喜びを感じています。一人でも多くの方に関心を持っていただき、一人ひとりの得意とすること、できることを持ち寄って支援の輪が広がることを期待しています。

● 村井眞理子さん（社会福祉法人びわこ学園・滋賀県重症心身障害者ケアマネジメント支援事業企画課長）

何より伝えたいのは、この子どもたちはどうやって成長するかというと、介護をしてもら、遊んでもらう、お風呂に入ってもら、いろんなことでのつながりの中で成長を遂げていかれるということがとても大きいということです。縁センターの事業とも連携し、皆さんの手をいただいたところで、皆さんと一緒に成長していける、共生社会を創っていききたいと思っています。

● 清水潤平さん（高島市社会福祉課 参事）

子ども食堂で会ったおっちゃん、たまに会ったときに「なんや、中学校に行ったんか」としゃべってくれるみたいなどころにするための仕組みづくりや、それを応援する計画を作り出すのは行政の仕事です。「〇〇さん、また会ったな」とつながり続ける地域づくりに向けて協働して、行政として仕事をしたいと思っています。

事業実施運営体制

滋賀県社会福祉協議会 理事会

縁 推進企画委員会

委員長／上野谷加代子
副委員長／金子秀明
高齢・障害・児童・社協・県行政
の立場から7名の委員

遊べる学べる 淡海子ども食堂 推進委員会

高齢者施設を活用した
中高年障害者の
居場所づくり委員会
（県障害者自立支援協議会
との共働事業）

重度障害児者の 生活支援企画委員会 （県障害者自立支援協議会 との共働事業）

居住・生活支援事業
企画委員会

縁アカデミー （準備会）

令和2年度の
縁アカデミー創設に向け、
枠組みづくりと
プレ企画を実施

要養護児童の アフターケア 企画委員会

フリースペース推進委員会

ひきこもり者と家族の
支援企画委員会

滋賀県老人福祉施設 協議会との共働事業

テクノロジー活用による施設ケアの向上や
施設を超えた同職種をつながりづくり等を
テーマに、現場を元気にする活動を
企画・実施

滋賀県保育協議会との共働事業

男性保育士が核となって、
現場から福祉人の魅力を発信

縁認証事業
プロジェクトチーム

縁 架け橋 ステーション

各リーディング事業を
つなぐ県社協の事務局

縁 特別会費の使途（令和元年度）

- 地域食堂としての子ども食堂づくり
- ひきこもりの人と家族の支援
- 社会福祉施設を活用した子どもの夜の居場所「フリースペース」推進
- 社会的養護のもとで育つ若者と社会の架け橋づくり
- 高齢者施設を活用した中高年障害者の居場所づくり
- 縁アカデミープレ企画の実施（滋賀の福祉人づくり）